

神経眼科学を学ぶ人のために 第3版

三村 治 著

日常の眼科診療では、眼球運動障害、視神経萎縮、原因不明の視野欠損など、神経眼科の知識を必要とする患者によく遭遇する。しかしその一方で、神経眼科の分野は少し苦手という眼科医はかなり多い。その理由は、神経眼科の疾患を理解するために眼球運動や瞳孔反応の神経回路や異常メカニズムを理解する必要があるからであろう。しかし、一度これらを理解し、いくつかのコツやパターンさえ身につけてしまえば、神経眼科は実にわかりやすく面白い領域である。その事実気付かせてくれたのが、本書『神経眼科学を学ぶ人のために』である。これまでも神経眼科専門医の誰もが推薦する名著であったが、今回さらに大幅なバージョンアップがなされ、誌面もカラフルに生まれ変わった第3版が上梓された。

本書の最大の特徴は、「見やすさ、わかりやすさ」にある。著者である三村治先生の講演を聴いた方ならわかるであろうが、平易な言葉で、診断のコツがどこにあるかが切れ味よく解説されている。第2版も図や写真が多くて読みやすい本だったが、第3版ではさらにカラーのイラストが増えており、視覚に訴えて理解させたいという著者の情熱が伝わってくる。

次に強調したい点は、神経眼科疾患の診断における近年のイメージングの重要性を考慮し、眼底画像検査、特にOCTの結果が多く提示されていることである。総論だけでなく、各論の具体的な疾患でもOCTを用いた乳頭周囲の網膜神経線維層（cpRNFL）やganglion cell complex（GCC）の結果がカラーマップで示され、詳しく説明されている。これは、実際の患者

さんから得られたOCTの結果と照らし合わせる際に非常に役立つ。

さらに秀逸なのは、「Close Up」と呼ばれるコラムである。このコラムは、よく耳にする話題や最新のトピックスに焦点をあて、三村先生が短い読み物として書いたものである。このコラムには三村先生の経験談や個人的な感想などが散りばめられていて実に面白く、私は最初にこのコラムだけを1日で読破してしまった。

最新データがふんだんに盛り込まれている点もありがたい。例えば、視神経炎の項目では、AQP4抗体、MOG抗体陽性の視神経炎の内容を加えて大幅な改訂が行われており、それらの最新の臨床試験の結果も知ることができる。AQP4抗体陽性の難治性視神経炎に対するサトラリズマブ（エンズプリング<00AE>）の臨床試験結果や、新型コロナウイルスで乳頭血管炎が起こる話題などにも触れているが、これはつい先日の話題である。

読み物としてじっくり楽しむのもよし、外来に置いて調べ物として使うのもよし。これから神経眼科を勉強したいと考えている若い眼科医に、そして既に本書の初版と第2版を持っている三村先生ファンの眼科医にも、ぜひともお薦めしたい一冊である。

三重大大学院教授・眼科学
近藤峰生

B5・頁360 2021年04月
定価：本体9,500円＋税
[ISBN978-4-260-04636-7] 医学書院刊